

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(デジマ留学生奨学金)

部局名 : 学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	5,400千円	5,400千円	3 人 × 1 人150 千円 × 12 月 = 5,400 千円
合 計	5,400千円	5,400千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 3名の留学生(大学院生3名)に経済支援を行った。

令和6年度デジマ留学生奨学金受給者一覧

[illegible]

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(留学生支援事業)

部局名: 学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
1. 各種保険事業	6,349千円	2,049千円	民間宿舎に入居する留学生に対する留学生住宅総合補償加入の補助及び留学生用宿舎の個人・借家人賠償責任保険加入の補助
返戻金	54千円		留学生の卒業・修了に伴う保険解約による留学生住宅総合補償返戻金
2. 交流補助事業		3,702千円	大学主催の行事にかかる運営経費・参加費・保険料等の補助
3. 広報活動補助事業		0	留学生関連の広報
4. 予備費		0	予備費
合 計	6403千円	5,751千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】
1. 各種保険加入事業では、民間宿舎に入居希望の延べ約300人への保険加入補助を行うことで、大学が機関保証となり入居することができた。また、留学生用宿舎入居者の賠償責任及び火災保険加入補助を行うことで、入居者約200人が安心して生活することができた。
2. 交流補助事業では、留学生と日本人学生の交流会として国際学生文化交流会を拡充し、年3回(4月、9月、12月)実施した。キャンパスモールを活用することで、近隣の高校生を含め地域の方々にもご来場いただき、約580名が参加した。また、Japanese table(月1回)を実施した。
3. 広報活動補助事業及び4. 予備費の支出はなかった。

収入の部 合計	53,970
---------	--------

(1) 返戻金 (留学生住宅総合補償) 53,970

日付	事項	相手先	支出
12月1日	留学生住宅総合補償返戻金(過年度返戻金)	(財)日本国際教育支援協会	34,920
12月18日	留学生住宅総合補償返金分(李 佩霖)	(財)日本国際教育支援協会	4,000
12月25日	留学生住宅総合補償返戻金(本年度返戻金)	(財)日本国際教育支援協会	15,050

(2) 執行額振替 0

日付	事項	相手先	支出

(2) その他 0

日付	事項	相手先	支出

支出の部 合計

5,751,434

(1) 各種保険加入支援事業 (①+②)

2,049,630

日付	事項	相手先	支出
4月5日	留学生住宅総合補償費(以下5名)	(財)日本国際教育支援協会	20,000
4月12日	留学生住宅総合補償費(以下2名)	(財)日本国際教育支援協会	8,000
4月22日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
4月25日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
5月13日	留学生住宅総合補償費(以下18名)	(財)日本国際教育支援協会	80,000
5月20日	留学生住宅総合補償費(以下11名)	(財)日本国際教育支援協会	44,000
5月30日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
6月11日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
7月2日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
7月4日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
7月18日	留学生住宅総合補償費(以下3名)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
7月25日	留学生住宅総合補償費(以下2名)	(財)日本国際教育支援協会	8,000
8月6日	留学生住宅総合補償費(以下3名)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
8月20日	留学生住宅総合補償費(以下33名)	(財)日本国際教育支援協会	126,000
8月30日	留学生住宅総合補償費(以下2名)	(財)日本国際教育支援協会	8,000
9月5日	留学生住宅総合補償費(以下53名)	(財)日本国際教育支援協会	240,000
9月11日	留学生住宅総合補償費(以下10名)	(財)日本国際教育支援協会	40,000
9月19日	留学生住宅総合補償費(以下11名)	(財)日本国際教育支援協会	34,000
9月26日	留学生住宅総合補償費(以下2名)	(財)日本国際教育支援協会	8,000
9月30日	留学生住宅総合補償費(以下13名)	(財)日本国際教育支援協会	48,000
10月3日	留学生住宅総合補償費(以下8名)	(財)日本国際教育支援協会	32,000
10月18日	留学生住宅総合補償費(以下12名)	(財)日本国際教育支援協会	46,000
10月30日	留学生住宅総合補償費(以下16名)	(財)日本国際教育支援協会	80,000
12月4日	留学生住宅総合補償費()	(財)日本国際教育支援協会	4,000
12月13日	留学生住宅総合補償費(以下11名)	(財)日本国際教育支援協会	52,000
12月25日	留学生住宅総合補償費(以下5名)	(財)日本国際教育支援協会	20,000
1月9日	留学生住宅総合補償費(以下2名)	(財)日本国際教育支援協会	8,000
1月22日	留学生住宅総合補償費(以下3名)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
1月30日	留学生住宅総合補償費(以下3名)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
2月7日	留学生住宅総合補償費(以下3名)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
2月13日	留学生住宅総合補償費(以下24名)	(財)日本国際教育支援協会	132,000
2月20日	留学生住宅総合補償費(以下11名)	(財)日本国際教育支援協会	44,000
2月26日	留学生住宅総合補償費(以下6名)	(財)日本国際教育支援協会	24,000
3月5日	留学生住宅総合補償費(以下27名)	(財)日本国際教育支援協会	152,000
3月11日	留学生住宅総合補償費(以下24名)	(財)日本国際教育支援協会	116,000
3月19日	留学生住宅総合補償費(以下13名)	(財)日本国際教育支援協会	60,000
3月25日	留学生住宅総合補償費(以下8名)	(財)日本国際教育支援協会	32,000
①日本国際教育支援協会留学生住宅総合補償加入負担金			1,550,000
1月23日	個人・借家人賠償責任保険(西町AB棟21部屋、ホルテンシア34部屋/個人194名)	(株)ライフプラザパートナーズ	499,630
②学生賠償責任保険加入支援金			499,630

(2) 交流補助事業

3,701,804

日付	事項	相手先	支出
4月3日	国際学生交流会開催費	長崎大学生生活協同組合	100,000
5月28日	Japanese café 材料費	長崎大学生生活協同組合	5,503
7月1日	Japanese Table材料費(風鈴作り)	法人カード	3,819
7月1日	Japanese Table材料費(風鈴作り)	法人カード	16,500
7月1日	Japanese Table材料費(七夕)	法人カード	686
7月9日	Japanese Table材料費(風鈴作り)	宮脇 恵美	1,983
7月18日	Japanese Table材料費(七夕)	法人カード	2,270

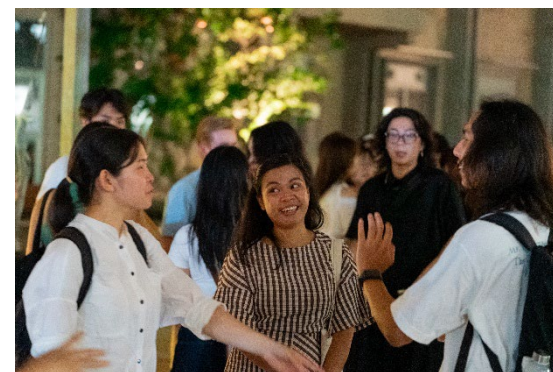
8月30日	長崎大学国際文化交流会	材料費	法人カード	1,306
8月30日	長崎大学国際文化交流会	材料費	法人カード	1,996
8月30日	長崎大学国際文化交流会	材料費	法人カード	13,495
9月9日	長崎大学国際文化交流会	材料費	法人カード	19,436
9月12日	長崎大学国際文化交流会	材料費	アスクール	2,754
9月19日	長崎大学国際文化交流会	材料費	アスクール	8,420
9月19日	長崎大学国際文化交流会	材料費	アスクール	24,560
9月26日	長崎大学国際文化交流会	綿菓子レンタル	法人カード	34,950
9月26日	長崎大学国際文化交流会	材料費	長崎大学生協	1,858
9月26日	長崎大学国際文化交流会	飲み物代	長崎大学生協	15,880
9月26日	長崎大学国際文化交流会	キッチンカー	libertallo鳥焼食堂 テトラ	84,000
9月26日	長崎大学国際文化交流会	キッチンカー	イノベーションジャパン(株)	140,000
9月26日	長崎大学国際文化交流会	キッチンカー	株式会社シンクロ・フード	388,600
9月27日	長崎大学国際文化交流会	テント設置・撤去費用	有限会社川井テント	333,400
10月8日	長崎大学国際文化交流会	クリーニング費用	(財)日本国際教育支援協会	20,185
10月17日	国際学生交流会運営補助	活動支援金	長崎大学チアリーディング部Berries他4サークル	150,000
10月17日	国際学生交流会運営補助	活動支援金	他4名	25,000
10月17日	国際学生交流会運営補助	活動支援金	他4名	25,000
10月17日	国際学生交流会運営補助	指導・助言及び演舞謝金		55,000
10月19日	新入生バス旅行	一部補助	有限会社長崎遊覧トラベル	57,400
10月28日	国際学生文化交流会	電気料9月分	エバークリーン・マーケティング(株)	63
10月29日	長崎大学国際文化交流会	クリーニング費用	(財)日本国際教育支援協会	3,630
11月1日	Japanese Table	材料費(おむすび作り)	法人カード	3,580
11月1日	Japanese Table	材料費(おむすび作り)	法人カード	1,496
11月1日	Japanese Table	材料費(おむすび作り)	法人カード	742
11月1日	Japanese Table	材料費(おむすび作り)	法人カード	1,070
11月5日	Japanese Table	材料費(おむすび作り)	法人カード	7,249
11月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	事前打ち合わせ 謝金	他2名	4,500
11月25日	「国際交流会-ふれあいお正月」	事前打ち合わせ 謝金	他4名	7,500
11月29日	イベントテント(12月20日お正月イベントのテント設置・撤去費込)		川井テント	680,900
12月2日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	3,599
12月5日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	3,818
12月5日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	773
12月5日	Japanese table	材料費(しめ縄作り)	法人カード	6,490
12月5日	Japanese table	材料費(しめ縄作り)	法人カード	10,010
12月6日	「国際交流会-ふれあいお正月」	餅つき材料費	法人カード	1,480
12月6日	「国際交流会-ふれあいお正月」	餅つき材料費	法人カード	13,800
12月9日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	3,389
12月9日	「国際交流会-ふれあいお正月」	餅つき材料費	法人カード	3,880
12月10日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	19,023
12月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	伝統あそび材料費	法人カード	7,755
12月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	679
12月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	701
12月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	1,078
12月11日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	長崎大学生協	5,328
12月12日	「国際交流会-ふれあいお正月」	門松作り材料費	長崎大学生協	579
12月12日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	660
12月12日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	5,213
12月12日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	2,980
12月13日	機器調整費		エムディーシステム	55,000
12月13日	スピーカーセット		エムディーシステム	567,160
12月16日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	10,492
12月16日	「国際交流会-ふれあいお正月」	ミニ門松キット	インテリアフラワー二葉屋	37,500
12月17日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	2,785
12月17日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	2,508
12月18日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	605
12月18日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	1,045
12月18日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	47
12月18日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	423
12月19日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	12,198
12月19日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	1,550
12月19日	「国際交流会-ふれあいお正月」	材料費	法人カード	1,932
12月19日	「国際交流会-ふれあいお正月」	屋外式ガスストーブ(ハラル君)	法人カード	312,444

[illegible]

国際学生文化交流会 (2024 春)



国際学生文化交流会 (2024 秋)



国際学生文化交流会 (2024 冬)



令和6年度 西遊基金事業実績報告書(「葉國璽」私費外国人留学生奨学金)

部局名:学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位:千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	9,600千円	8,100千円	(13人×12月+1人×6月)×1人50千円 =8,100千円
合 計	9,600千円	8,100千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 14名の留学生(大学院生12名、学部2名)に経済支援を行った。
--

令和6年度葉國璽私費外国人留学生奨学金受給者一覧

[illegible]

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(田添グローバル交流推進基金奨学金)

部局名:学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位:千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	1,500千円	1,160千円	1人×1人80千円+12人×1人70千円+4人×1人60千円 =1,160千円
合 計	1,500千円	1,160千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

17名の学生(大学院生3名、学部14名)に留学支援を行った。

令和6年度長崎大学田添グローバル交流推進基金奨学金

【支給者】

番号	支給時期	部局名	学年	プログラム名	実施責任者	派遣先		派遣期間	地区別単価	地域区分
						国名	機関名			
1	第1回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	マクタン・セブ空港	2024.9.4 ～ 2024.9.25	70,000	乙
2	第1回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	マクタン・セブ空港	2024.9.4 ～ 2024.9.25	70,000	乙
3	第1回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	マクタン・セブ空港	2024.9.4 ～ 2024.9.25	70,000	乙
4	第1回	情報データ科学部	4	卒業研究 または グローバルセミナーB	宮本 道子	タイ	泰日工業大学	2024.9.14 ～ 2024.9.20	70,000	乙
5	第1回	多文化社会学部	4	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	ルワンダ	NPO法人 ルワンダの教育を考える会	2024.8.6 ～ 2024.9.26	60,000	丙
6	第1回	情報データ科学部	4	卒業研究 または グローバルセミナーB	宮本 道子	タイ	泰日工業大学	2024.9.10 ～ 2024.9.20	70,000	乙
7	第1回	情報データ科学部	4	卒業研究 または グローバルセミナーB	宮本 道子	タイ	泰日工業大学	2024.9.14 ～ 2024.9.20	70,000	乙
8	第1回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	マクタン・セブ空港	2024.9.11 ～ 2024.9.25	70,000	乙
9	第1回	情報データ科学部	4	実社会課題解決プロジェクト（PBL）の海外「出たい！」プロジェクト	柴田 裕一郎	タイ	泰日工業大学	2024.9.11 ～ 2024.9.21	70,000	乙
10	第2回	工学部	2	ドイツ語海外短期語学 留学プログラム	マイケル・ス アブドゥルラッハマン	ドイツ	フライブルク大学	2025.3.4 ～ 2025.3.28	80,000	甲
11	第2回	総合生産科学研究科	1	国立高雄科技大学 水園学院/海洋商務学院 ダブル・ディグリー・プログラム（複数学位制度）	総合生産科学研究科長	台湾	国立高雄科技大学	2025.2中旬 ～ 2026.1月中旬	60,000	丙
12	第2回	総合生産科学研究科	1	国立高雄科技大学 水園学院/海洋商務学院 ダブル・ディグリー・プログラム（複数学位制度）	総合生産科学研究科長	台湾	国立高雄科技大学	2025.3中旬 ～ 2026.2月中旬	60,000	丙
13	第2回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	PGSトラベル	2025.2.17 ～ 2025.3.3	70,000	乙
14	第2回	多文化社会学部	3	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	カンボジア	CJIC 日本語学校	2025.1.6 ～ 2025.1.20	70,000	乙
15	第2回	多文化社会学研究科	1	多文化社会学部自主企画インターンシップ	佐藤 靖明	台湾	樹火記念紙博物館、 南投工芸博物館	2025.1.7 ～ 2025.1.15	60,000	丙
16	第2回	多文化社会学部	2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	PGSトラベル	2025.2.18 ～ 2025.3.3	70,000	乙
17	第2回	多文化社会学部	3	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	フィリピン	PGSトラベル	2025.3.1 ～ 2025.3.14	70,000	乙

1,160,000

指定都市

甲

乙

丙

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(福德グループ一般奨学金)

部局名 : 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
福德グループ一般 奨学金支給	720千円	540千円	1.奨学生1名 × 12月 × 30千円 = 360千円 2.奨学生1名 × 6月 × 30千円 = 180千円(※) (※)奨学生資格喪失により、6月分のみ支給
合 計	720千円	540千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 本奨学金は福德グループ代表取締役会長である福島誠氏からの「長崎大学西遊基金」へのご寄附を 基に設立されたものである。 令和6年度は令和3年度に採用された奨学生2名に対し、引き続き毎月30千円を支給した。

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(学生団体の活動に対する補助)

部局名: 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
課外活動支援 予算配分	2,000千円	2,000千円	
ししのこプロジェクト		40千円	扇風機、インクジェットプリンターの購入
女子端艇部		79千円	カッター用オール、レザーの購入
経済男子バレーボール部		60千円	バレーボール、ボールカゴ船形3点セットの購入
全学男子ハンドボール部		66千円	ハンドボールゴールネットの購入
全学フットサル部		28千円	フットサル・ハンドゴールネットの購入
歯学部 茶道部		21千円	電動ポット、掃除機の購入
RON・Rock部		144千円	ギターアンプキャビネットの購入
医歯薬ダンス部WEIRDO		7千円	ダンスフィルムミラー 割れない全身鏡の購入
全学ダイビングサークル ISANA		370千円	クレストライン M、レギュレーターセットの購入
女子アイスホッケー部		47千円	チェストプロテクター Sの購入
本学バドミントン部		88千円	バドミントン シャトルの購入
全学アーチェリー部		309千円	WNS EXPLORE DX H25(ブラック)、 WNS EXPLORE DX H25(ホワイト)、 WNS EXPLORE W1 ポンド:26、 WNS EXPLORE W1 ポンド:28、 ENIGMA センタースタビライザー、 ENIGMA エクステンダー、 HASCO SPレンチ、 SHIBUYA VERSA11インチ の購入 ※PeaceMatch開催に係る 交通費補助等支援
サッカー部		621千円	ユニホーム代、 ユニホームへの圧着プリント代、 スポンサーバナー代、 宿泊費(一部金額支援)、高速代、 ガソリン代、駐車場料金
全学サークル連合		120千円	※学生イベント(ナイトフェス)プロジェクターレンタル料を 一部振替(学生の自主企画→西遊基金:課外支援)
合 計	2,000千円	2,000千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

本事業により、学生団体自身の予算では購入が難しい物品の購入を行うことができた。
これにより、課外活動の充実、ひいては大学生活への満足度の向上が見込まれる。
継続的な支援により、学生の活動が活発化することを期待する。

広島大学体育会サッカー部

×

長崎大学サッカー部

Peace Match

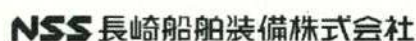
事業報告(中間)

Peace Match 2024

HIROSHIMA Univ.



NAGASAKI Univ.



長崎県/長崎市/国立大学法人長崎大学/長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) /
(公財) 長崎平和推進協会/ (一社) 長崎県サッカー協会 / (公財) 広島県サッカー協会

1. はじめに

大学生というアマチュアのカテゴリーにおいて、被爆地である広島と長崎の学生が交流をし、その交流を通じて、「平和」に対するメッセージを発信したい。

Peace Match がアマチュアスポーツで実現した際には、これからの時代を生きてゆく若者たちが、社会に飛び立った先でも、平和の構築のために、アクションを起こすきっかけや自信になる。

プロサッカー（Jリーグ）においても、Peace Match を設定しているが、スポーツに限らず様々な分野で活躍する人が所属するアマチュアスポーツだからこそ、継続的に、広島、長崎の両大学で試合を行うことで、社会に対して、平和の構築の一助となることができると考えている。

また、来年度、長崎では「ながさきピース文化祭 2025」が開催される。長崎県の取り組みに、一部活動が市民レベルで参画をアピールするいい機会である。この参画が決まった暁には、市民レベルでのピース文化祭の裾野を広げた取り組みであることもアピールできると考えている。

2. プロジェクト実施の背景

今年度の全国の被爆者の平均年齢が 85.58 歳となり、被爆者の高齢化が進んでいる。そのような中、来年 2025 年には、被爆から 80 年を迎えようとしている。これまでのように被爆の悲惨さを伝えていくことも大事であるが、経験した人たちが少なくなる一方で、経験をしていない人たちがその悲惨さを伝えることは容易ではないという声もあるのは事実である。

だからこそ、新しい「平和の継承」があるのではないかと考えた。アマチュア（大学）スポーツにおいて、平和のあり方を協同的に考え、恒久平和を願う大会としたい。また、一つのアマチュアチームが行動を起こすことで平和構築への行動を誰もが起こすことができる雰囲気波及させ、平和構築のための行動の裾野を広げていくことを目的としている。

3. Peace Day 実施報告

【Day 1】：7月13日（土）

「文化理解を通じた平和の構築」と題して、チリ出身のシルヴァ・カミーラ・ガエテ・ラゴス氏（長崎外国語大学3回生）にご講演をいただきました。

（公財）長崎平和推進協会の国際部の活動に参加してきました。

今回は、チリ人留学生のシルビア・カミーラ・ガエテ・ラゴスさん（23）に「文化理解を通じた平和の構築」と題して、国立長崎原爆死没者追悼祈念館での講演会を聴講しました。

講演の中でラゴスさんは、「他者の痛み」を知り、共感することが重要だと訴えられていました。

ラゴスさんは動物の皮で作られた服やチリの伝統のキーホルダーのようなものを持って来られており、それを実際に私たちも触りながら、話を聞くことができました。紛争の話がされている中で、日本映画「ホテルの墓」の話があった。映画を見た当時、日本での出来事（歴史）を初めて知り、「絶対にこのような事は起きてはならない」と力強く話をされており、私たちの多くも共感しました。

これまで日本は苦しい時代背景から奮闘し、今の日本を築く事ができましたが、まだ世界の中にはさまざまな理由で傷つき、復興のために戦っている国が多くあることには驚きを隠すことができませんでした。今そして、自分たちが何不自由なく暮らせているのは当たり前ではないというメッセージも発信されていました。

また、別の角度から、戦争や紛争で「平和」が脅かされていることはもちろんですが、環境自然や貧困、性などの要因で、普段の日常の平和が失われることがあることを訴えられており、より現実的な部分での平和を築いていくことの難しさも実感しました。

私たち長崎大学サッカー部は、原爆という日本（長崎・広島）の歴史的事実を学ぶだけではなく、他国の情勢や他国の「当たり前」にも目を向け、広い視野で「平和」について学び、考えていくことを大切にしていきます。

【Day2】：7月20日（土）・8月5日（土）

「スポーツと平和」に関する講演会を監督である田中がおこないました。

私たちが学ぶ長崎大学は、1945年当時、実は三菱兵器工場（大橋工場）で魚雷を作っていた場所であることを皮切りに講話が始まった。私たちが学ぶ場所が、どのような場所であったのか、被害者としての側面だけではなく、別の側面からも考えた。その中で、この



Peace Day の価値を再確認し、「私たちにできる平和の構築」について考える時間となりました。

被爆者の平均年齢が 85.58 歳（令和 6 年度）となり、来年、被爆から 80 年を迎えることを考えると、当時 5～6 歳で被爆した人たちということになることを突きつけられた時、被爆者の思いをどのように繋いでいくのかを考えなければならない時期に来ているのではないかと皆で認識をしました。

その中で、平和とは「守る」ものではなく、平和を「つくっていく」のだとベクトルが合う講話だったと思います。

また、長崎大学核兵器廃絶センター 樋川氏（副センター 長）に「スポーツと平和—あたりまえはあたりまえじゃない—」をテーマにご講演いただいた。

「不拡散」と「廃絶」とは全く別の問題であり、さまざまなことが複雑に絡んでいるということをまずは知ることが大事だということを学びました。

樋川先生は、「仮に核兵器をなくすとなった場合、どのような手順が必要だと思うか」と、私たちに投げかけられました。実際に使用可能な兵器を、爆発させないように解体するにはどのようにするのか。兵器を解体してしまったという事実をどのように調査するのか、など、さまざまな問題を抱えています。その諸問題を解決しない限り、廃絶が難しいということを学びました。

「平和」をテーマに、「歴史」「文化」「産業」「核兵器」など、さまざまなアクションがあることを学び、多角的な視野から「平和」について考える機会を作ることができたと思います。

また、20 日に学校行事と被った関係で、8 月 5 日に、平和関連施設周辺の清掃活動をしました。

- ①原爆落下中心地公園
- ②浦上天主堂通り
- ③永井隆記念館→大橋→平和公園入り口

上記 3 つのルートに分けて清掃活動を行いました。この周辺は、普段から修学旅行生も多く行き交う場所です。

そして、平和を訴える地区でもあります。そんな場所を綺麗に保ち、場所が持つメッセージに想いを馳せてもらう環境を作ることが私たちにできる平和活動です。

長崎で生活する若者を代表して、何か平和のためにできることはないかと考え、世界に原爆の恐ろしさを伝え、亡くなられた方々のご冥福を祈り、世界平和の実現を呼びかける平和公園（とその周辺地域）を、8 月 9 日を迎える前に、敬意を込めて綺麗にできたことを嬉しく思います。

今後は、私たちの活動を通して、長崎に住む他の方々にも伝播して平和に対して向き合う人が増え、原爆が落ちた過去の思いや事実を受け継いでいくことが願いです。

最後になりますが、清掃活動中に多くの方々からお声



かけいただきました。パートナー提携を結んでいる企業様の代わりになって、私たちが、「私たちにできる奉仕活動」を行います。

【Day3】：8月10日（土）・11日（日）※9日移動日（広島入り）

8月9日（金） 14時30分に長崎大学を出発し、21時過ぎにホテル広島ガーデンパレスに到着しました。ホテルには、サッカーサプリメント様より提供物品が届いていたため、記念撮影をし、各自、その日は就寝。

8月10日（土） 8時から広島平和記念資料館内を見学。当日朝から RCC 中国放送様が密着で取材をしてくださった。その後、9時20分頃に原爆死没者慰霊碑前で黙祷を捧げた。その後、3つのグループに分かれて、平和記念公園周辺の原爆関連施設を回りました。見学場所は以下の通りである。訪問レポートは、報告書の選手レポートを参照ください。

- ・平和の鐘
- ・平和の時計塔
- ・原爆供養塔
- ・原爆の子の像
- ・被爆樹木アオギリ
- ・平和の門
- ・原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑
- ・袋町小学校平和資料館
- ・本川小学校平和資料館
- ・旧日本銀行広島支店
- ・原爆ドーム周辺の石碑・花時計等
- ・原爆ドーム

全ての施設見学を 14 時 30 分に終了し、東広島にある広島大学ドリームフィールドに向かった。



16 時 40 分、両チームが全員集合し、両大学の主将で作成した「平和宣言文」を読み上げた。

平和宣言文の内容は、以下のとおりである。

—平和宣言—

広島、長崎はあの日から 79 年の時が過ぎ、来年で 80 年が経ちます。

広島は約 14 万人、長崎は約 7 万人の人々が犠牲になり、原爆を経験された方の平均年齢は 85.58 歳となりました。刻一刻と被爆者の方々が少なくなっていく中で、あの悲惨な出来事を私たち学生が知り、これからの未来を担う若者へと語り継いでいくことは、日本だけではなく世界にとって、とても大切なことであると感じます。

これまで約 20 年間、何不自由なく日常生活を送れたり、サッカーをすることができたりすること、また、たくさんの人たちと接する中で、平和であることのありがたみを感じてきました。私たち

大学生がピースマッチを通じて、サッカーが当たり前にできることに感謝し、平和宣言を行うことに意義を感じています。

本日、同じ被爆地である広島と長崎の学生の一人として、サッカーを通じて、一生懸命楽しむ姿から平和の輪を広げ、永遠に続く平和への願いを世界へ発信していくことをここに宣言します。

8月10日

広島大学体育会サッカー部 山邊樹

長崎大学サッカー部 吉次晃史

その時の模様は YouTube にあげております。ぜひ、ご覧ください。

試合は、

10日、長崎大学 1 - 6 広島大学

11日、長崎大学 0 - 9 広島大学



↑ 平和宣言文
読み上げの様子



↑ 試合当日様子

令和6年度 西遊基金事業実績報告書(学生のプラネタリーヘルスに関する教育、研究
及び課外活動促進のための支援事業)

部局名: 政策企画部政策企画課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

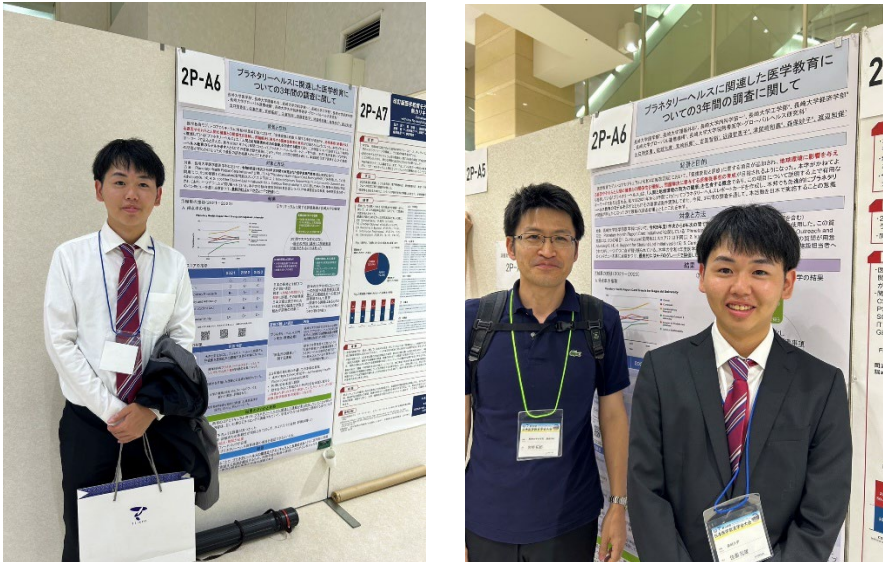
項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	1,930千円	475千円	
①プラネタリーヘル スレポートカード ・学会発表 ・事業支援経費	1,180千円	75千円 74千円 1千円	本学学生の、「第56回日本医学教育学会大 会」における参加費等の学生支援及びプラネ タリーヘルスに関する事業支援
②学会等への一部 旅費支援	750千円	400千円	ごみ問題が顕著なバジャウ村におけるスタ ディーツアー参加にかかる交通費やツアー費 等の学生支援
合 計	1,930千円	475千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果、問題点、その他特筆すべき事項】
①プラネタリーヘルスレポートカード※について【別紙資料1、資料2参照】 「第56回日本医学教育学会大会」へ参加をするため、学会参加費・旅費を支援した。当該学会では、 本学サークル「ししのこプロジェクト」の学生が、「プラネタリーヘルスに関連した医学教育についての3 年間の調査に関して」というポスター発表を行った。発表に至る3年間の、医学部におけるプラネタリー ヘルス教育、研究、また地域推進活動や学生支援活動、施設の環境への配慮についての調査は、学 生にとって大変有意義で貴重な経験となった。 加えて、プラネタリーヘルス推進活動を実施する上で、学生がコワーキングスペースを利用しているこ とから、その利用料等を支援し、活動に関する議論等に活用された。 ※プラネタリーヘルスレポートカード(Planetary Health Report Card (PHRC))…大学内におけるプラネタ リーヘルスの取組を学生が調査・評価するものであり、欧米諸国の医学部学生が中心に取り組んでい る。 ②学会等への一部旅費支援について【別紙資料3参照】 令和7年3月3日(月)～3月8日(土)にフィリピン(セブ)のバジャウ村で実施された、学生の海外研修に 係る旅費等を支援した。当該研修では、フィリピンのセブを中心に活動し、ごみ問題が顕著なバジャウ 村や現地の企業、児童養護施設を訪問した。実際に現地に赴くことで、日本と発展途上国の環境面、 教育面、保健衛生面について、机上の空論ではなく「現実では何ができるのか、どう行動していくべき か」というように現実的かつ実践的な観点で物事を捉えることができ、参加学生はプラネタリーヘルスや その実現に向けた取り組みに対して考えを深めることができた。

報 告 書

報告日：令和 6 年 8 月 3 1 日

件 名	第 56 回日本医学教育学会大会
実 施 日	令和 6 年 8 月 9 日（金）～令和 6 年 8 月 1 0 日（土）
場 所	帝京大学板橋キャンパス
参 加 者	長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」 佐瀬光雄（医学部 4 年）
目 的	本邦の中で本学が先進的に取り組んできた Planetary Health Report Card(以下 PHRC)について学会を通してその意義や成果を共有する。
概 要	2024 年 8 月日本医学教育学会に担当教員の宮崎拓郎先生(長崎大学病院 呼吸器外科准教授)とともに参加し、上記内容についてポスター発表を行った。本学はこれまで 3 年にわたり医学部におけるプラネタリーヘルス教育、研究、また地域推進活動や学生支援活動、施設的环境への配慮について調査を行ってきた。調査を通して、本学が特に研究分野についてプラネタリーヘルスに関連するものが多くあることや、教育に関して各論的な授業はあるが包括的な授業はないなどの発見があった。そして 3 年間の調査とその都度行ったフィードバックによってどのような変化があったかについてもまとめることができたので、結果も併せて発表を行った。発表を通してプラネタリーヘルス教育に関して関心を持たれている先生が多くいらっしゃるなどがわかり貴重な経験となった。
今後の展望	3 年間の活動は大変有意義ではあったものの、その実施にあたっては学生の人数が不足しているなど課題も多くあった。まずは今後も調査を続けていき、また他の大学にも同様の活動を広げていくための体制づくりを行っていく。
写真添付	

報 告 書

報告日：令和7年3月31日

件 名	令和6年度 プラネタリーヘルス推進活動に関する会議
実 施 日	令和6年4月1日（月）～令和7年3月31日（月）
場 所	Matsuyama Meeting Point（長崎市松山町 4-40 松山ビル 4 階）
参 加 者	長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」部員一同
目 的	本学で推進されているプラネタリーヘルスに関して、ししのこプロジェクトとしてどのような活動ができるか議論し、その企画や今後の具体的な計画についてアイデアを出す。
概 要	ししのこプロジェクトは、これまで Planetary Health Report Card の作成をはじめとしてプラネタリーヘルス推進に関わる多くの活動を行ってきた。ここ数年は、活動範囲を全学に広げペットボトルキャップのリサイクル活動を中心に進めてきた。 今後もプラネタリーヘルスの実現に必要な要素を考え、様々なアプローチからその推進のためにできることを考えていく必要があると考えている。具体的には環境にやさしい石鹼づくりやゴミ拾い活動などが一案として挙げられた。 また、この推進活動を今後も続けていくうえで、サークル内の他のチーム(子育て支援プロジェクト、海外渡航プロジェクト)や他の学生団体との協力も必要不可欠であり、その点についても会議を通して話し合われた。
今後の展望	海外渡航チームのフィリピン研修で実際に見聞きしたものを共有しながら4月以降今後の方針を決めていく。
写真添付	キャップ回収状況 • 2023.8～2024.4 44.7kg (キャップ約1800個) ポリオワクチン45個分 • 2024.5～2024.9 10月以降集計 ペットボトルキャップ回収記録 長崎大学「ししのこ」プロジェクト 〒850-8585 長崎県長崎市松山町4-40 松山ビル4階 キャップ回収日 2024年 4 月 30 日 集計数量 44.7 kg 集 計 額 894 円 2024年 4 月 30 日 長崎大学 長崎県環境未来局 長崎県環境未来局 長崎 県民 局 生協コラボ企画 【プラヘルウィーク】 • 生協のお弁当容器またはペットボトルキャップを返却でガラボン抽選権 • お弁当容器10円/枚キャッシュバック 



報 告 書

報告日：令和7年3月21日

件 名	プラネタリーヘルスに関する海外研修
実 施 日	令和7年3月3日（月）～令和7年3月8日（土）
場 所	フィリピン（セブ） — バジャウ村
参 加 者	長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」 ・出口 明香里（医学部 3年） ・山田 知佳（環境科学部 2年） ・立野 楓（医学部 3年） ・福浦 知葉（工学部 2年）
目 的	プラネタリーヘルスを考えていくものとして、日本と発展途上国の環境面、教育面、保健衛生面について実際に目で見て、机上の空論ではなく、「現実では何ができるのか、どう行動していくべきか」を自分なりに見つける。
概 要	● 3/4（火） ごみ問題が顕著なバジャウ村を訪問 バジャウ族は、漂海民と呼ばれ、もとは船の上で漁をして暮らしていたルーツがある。今は海沿いに木造の家を建てて生活しているが、セブ島の都市開発や環境汚染の影響もあり、周囲の海や川にゴミが流れつくようになった。また移民のため戸籍がない人も多いので、そもそも政府がゴミ回収をしないため、海洋ゴミの上で暮らしている。魚がいる綺麗な海まではガソリン代がかかることから昔のように毎日漁をすることは出来ず、民族性は少しずつ薄れ、道端や観光地での物乞いや真珠などのアクセサリ販売をして日銭を稼ぐ人が大半。医療面はあまり充実しておらず、頭部の大きな傷口を放置している子供も見受けられた。犬も子犬時代は檻に入れてみんなでお世話しているが、ある程度大きくなったら放し飼い。大人の犬は餌をもらえるわけでもなく、かなりやせ細っている。狂犬病の教育はあるのか、現地の子供たちも大人の犬や猫には近づこうとしないばかりか追い払う姿も見られた。 訪問の3日ほど前に大火災が発生し村が半壊状態になった。人によっては政府が火を放った、という説を話している人もいた。元々、ルガウ(Lugaw)というフィリピン料理を作り、炊き出しを行う予定だったが、その炊き出しがより意味を成すものとなった。また、バジャウ族の方にバジャウ村内のツアーをしてもらい、ごみ問題の現状を理解した。 ● 3/5（水） Children of Asia（児童養護施設）を訪問 非政府組織の児童養護施設であり、施設自体はとても狭い。ワンフロア六畳位の狭い空間で、子どもが十分に運動できるスペースはなかった。しかし教育自体は後れを感じなかった。実際字を書ける年齢は日本人の子供と変わらなかった。英語もしっかり話せていて、日本人の英語も理解してくれた。しかし児童養護施設にいる子たちはバジャウ村の子供たちと違って控えめでおとなしい子が多かった。お菓子を差し入れに持って行ったが、お菓

	子にしてもペンにしても、これがいい！や、これは自分のだ！と主張することができない様子だった。 レクリエーションとして書道体験をしてもらった。実際の書道道具は服を汚したり、個数的な問題もあったので、カラーの筆ペン24本入りのものを使い、模造紙に筆ペンで文字や絵をかいてもらった。持ち方や書道の簡単なレクチャー以外にも、数字を教えながら一緒に書いたり、私たちの名前を漢字でこう書くんだよという紹介もできた。 ● 企業訪問(アドウェイズ) もう一つ児童養護施設を訪問する予定だったが、施設側の都合により訪問が困難になったので、代わりに日本人が代表を務める企業を訪問し、“海外で働くとは”という題材で、座談会形式でお話を伺った。自信は経験から来るもの。海外に飛び出すのは勇気がない、不安なのは経験がないから当たり前のこと。その状態で一歩踏み出すことの重要性に気づかされた。 ● 3/6（木） Banilad Elementary School（現地の小学校）を訪問 バニラッド小学校と名はつくものの、小学校～高校までが一体化した施設。夜間コースも存在。夏場は気温が高くなりすぎるため休講になることも多い。フィリピンの教師はあまり給与が高くなく、本当に教育に対して情熱がないと続けるのが難しく、仕事を掛け持ちしている人もいる。いい先生が教育を続けにくく、生徒がよい教育を受けるチャンスが減るのは社会問題と言ってもいい。また、学校自体への政府の補助が不足しているため、生徒は大学の講義室の机のような同じ高さの机に椅子がついている横長の机を使っていた。特に成長盛りの小中学生には背中を丸めて授業を受けている子もいた。一人一人の成長段階にあった机椅子を提供している日本と比べると、もっと政府が教育にけるお金を増やせたらいいのになと感じた。 ● 3/7（金） 振り返りミーティング、Sea Activity バジャウ村、企業訪問、Banilad Elementary School、Children of Asia の4つの項目に分けて感じたこと、気づきを一覧にしたのち、この研修を総合的に見て今後自分たちには何ができるのか、を考えた。マクタンニュータウンを訪問したが、観光地(リゾート地)であるためか、街中はきれいでゴミがほとんどなく、むしろ生活感がないように感じられた。塾のようなものもみられ、そこから出てくる子供たちはこぎれいな恰好をしていて、富裕層のように見られた。ここで初めてセブ内の明確な貧困差を感じた。 ※3/3（月）及び3/8（土）…移動日
今後の展望	今回の各地訪問の中で特にバジャウ村に暮らす人は《貧困、ごみ問題に直面しているにもかかわらずみんな楽しそう、自分たちの生活を守ろうとしている》ことが予想外の気づきだった。このことから、バジャウ村の人々は本当にごみ問題を解消してほしいと感じているのか？とさえ感じた。今後他国、他地域、の環境問題を解決する活動をするにあたって直接介入するよりも、問題点を知ってもらったうえでどう改善していくのかはその土地に住んでいる人々の判断で、その土地なりのやり方で取り組んでもらうべきだということが分かった。先進国と呼ばれる私たちにできるのはその問題点と解決方法を知ってもらうための教育の場を提供していくことである。例えば奨学金を出して日本で学んでもらってそれを現地に持ち帰って生かしてもら

う、寄付や提携することで教育機関を充実させる等があげられた。これは自分たちに金銭的な余裕が出てくる 10 年後 20 年後の話になるかもしれない。学生のうちにできる事としては私たちが現地でしてもらったように日本に来てくれた留学生などと交流し、学びをより深める手助けができるとよいと感じた。

写真添付



令和6年度 西遊基金事業実績報告書(文教キャンパス学生会館1階食堂床改修工事費)

部局名 : 施設部

1. 支出実績額内訳

(単位:千円)

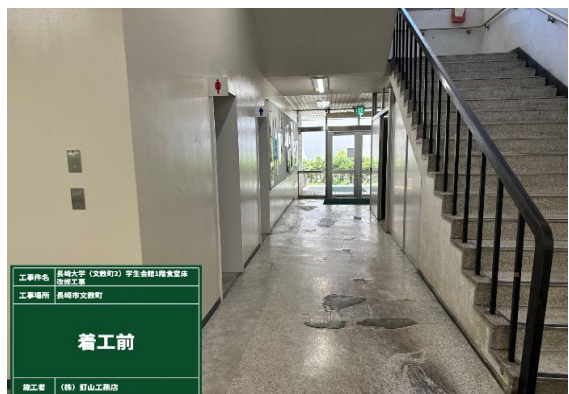
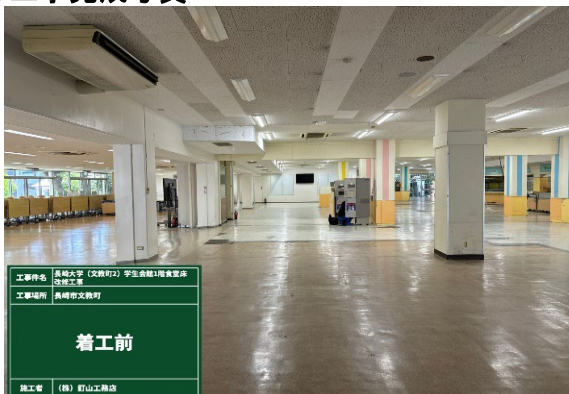
項 目	令和6年度 配 分 額	令和6年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
(文教町2)学生会館1階食堂床改修工事	12,500千円	12,500千円	学生会館1階食堂の床改修を行った。
合 計	12,500千円	12,500千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 文教キャンパスの学生食堂1階の食堂は、経年により内装(特に床仕上げ材)の劣化が進行しており、不衛生な印象を与える等、施設全体の印象を悪くしていた。 事業経費を使用した改修工事を実施することで、安全で清潔な環境を整備することができた。 これにより、学生が快適に食事を楽しめる空間が確保された。
--

工事名 (文教町2)学生会館1階食堂床改修工事

○工事完成写真



左記写真の奥側から撮影したもの

学 長 殿

所属 医学部
職名・氏名 医学部長・池松 和哉
連絡先 kei_med@ml.nagasaki-u.ac.jp

特定基金事業報告書

このことについて、令和 6 年度の事業を下記により報告します。

記

1	設置責任者	所属・職名：医学部・医学部長 氏名：池松 和哉	
2	経費執行担当者	所属・職名：生命医科学域・研究所事務部学術・管理課・課長 氏名：高比良秀一	
3	事業名	医学科教育事業	
4 会計報告			
		金額（単位：千円）	内容（簡潔に記入すること）
	期首残高	0	
	寄附実績	2,160	(内訳) 在学生保護者 915,000円 卒業生 215,000円 一般 1,000,000円 教職員 30,000円
	執行金額	0	
	期末残高	2,160	
5 事業の成果，問題点，その他特筆すべき事項			
令和6年9月 教育後援会で基金活動 令和6年9月 同窓会誌に本基金についての記事を掲載依頼（新春号(R7.2発行)に掲載） 令和6年11月 東京で行われた同窓会行事で基金活動 令和7年1月 広島で行われた同窓会行事で基金活動 令和7年3月 佐世保で行われた同窓会行事で基金活動 設置に伴い、基金を周知すべく教育後援会及び同窓会行事で活動を行った。周知活動を行った直後は、寄附金の申込があるものの、一過性のものにすぎず、継続して一定の金額を集める事は出来なかった。 今後は、継続して寄附金の申込を得られるよう、継続的に教育後援会及び同窓会行事で活動を行う予定である。また、今後行う行事において、基金の周知活動を随時行っていく。			